

# ぼれぼれ

通信



ミサイルが飛んで来たら、  
どうなる日本？

7・8月号  
**vol.35**

北朝鮮が、5月14日に新型の中長距離弾道ミサイル「火星12号」、5月21日に中距離弾道ミサイル「北極星2号」を発射し、自国の軍事技術の向上を内外に示した。これらの技術が日本の

ように平和目的の科学技術の向上であれば、自国民の生活環境の向上や地域の発展にも寄与したのであろうが、これが軍事目的となれば話は別だ。国際社会からミサイル実験に対して自制



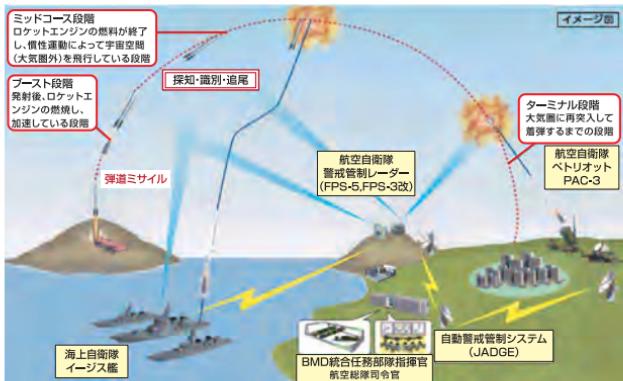
## 今まさに、 ここにある危機 ～国内編～

を求められているにも拘らず、立て続けに実験を行ったことは、世界やアジア地域の平和・安定への挑戦と言える。日本国内においても、これらミサイルの脅威については数多く報道されているので、ご承知の読者も大勢おられるだろう。一方で、日本は国家として国民の生命と財産を守る第一義的な責任を有しているが、このようないかに国民を守るかは、あまり報道されていない。そこで本号では、まず「国内編」として第三国や敵対勢力から日本に向けてミサイルが発射された場合はどうのように守るのか、

次号では「国外編」として有事の際に外國に滞在している日本人をどのように日本が守るのかを記すことにする。

## 弾道ミサイルに対する日本での迎撃システム

仮に第三国や敵対勢力から日本を目指してミサイルが発射されれば、まず3万メートル上空の米国の早期警戒衛星より日本の自動警戒管制システム(JADGE)に弾道ミサイルに関する情報が伝達される。その入手した情報をさらに弾道ミサイルを迎撃するBMDに



▲図①:我が国の弾道ミサイル防衛(BMD)整備構想・運用構想

は、大別して三つの段階がある(図①参照)。第一に「ブースト段階」、発射後、ロケットエンジンが燃焼し、加速して

ス段階)、ロケットエンジンの燃焼が終了し、慣性運動によって宇宙空間(大気圏外)を飛行している段階。第三、「ターミナル段階」、大気圏に再突入して着弾するまでの段階。もつとも容易に飛行している段階。第三で、この段階であるが、それはつまり、発射直後の敵地を攻撃できる能力を有するということになってしまふ。専守防衛を徹底している我が国としては、現在そのような能力は有していないが、防衛のために検討してはどうか、との議論もある。日本が実際に迎撃可能なのは、ミッドコース段階とターミナル段階である。ミッドコー

ス段階では、海上自衛隊のイージス艦が海上から、ターミナル段階では航空自衛隊のペトリオットPAC3-1が陸上から迎撃する。

## イージス艦とペトリオットPAC3-1の配備

イージス艦とは、目標の探知・追尾、情報処理、攻撃などを高性能レーダーとコンピューターで自動処理するイージス・システムを搭載した海上自衛隊の最新鋭護衛艦である。レーダーの防空探知範囲は約500キロ（従来艦の約5倍）において、同時に200個以上の目標を追尾することが可能であり、また10個以上の目標



▲図②：イージス艦3隻により日本全域を防護

り、神託を告げる毒蛇や見た者を石に変えてしまうメデウサ(Medusa)の頭が盾にはめ込まれ、無敵の盾となつたと伝えられる。そのイージス艦が3隻あれば、日本全土を弾道ミサイルから守ることが出来る（図②参照）。

そして、現在、日本は、イージス艦を6隻も保有している。「おっ！3隻必要で、そこの倍の6隻も保有しているなら大丈夫だな」と思った読者の皆様、ちょっと待つて欲しい。実は、6隻のイージス艦で弾道ミサイル防衛(BMD)に対応しているのは4隻しかない。4隻あれば足りると思われるかもしだれど、

ないが、艦船は3月5日、常時活用することはできな。メンテナンスや練度を上げるための訓練、実務としての派遣などを考えれば、実際に運用できるのは1年間の中でも約9カ月程度しかない。従って、BMD能力を有するイージス艦を4隻から8隻に増勢するべく現在建造を進めている。

ペトリオットとは、広域防空用地対空ミサイルシステムである。弾道ミサイル防衛(BMD)ではターミナル段階に対応し、20・30kmの範囲を防御する。ペトリオットPAC3-1は、弾道ミサイルへの対処能力を本格化するため、さらなる能力

向上を図った形態である。現在は大都市など主要個所を防衛するために17個隊の高射隊にしか配備されてい。が、教育隊を含む全28個高射隊をBMD対応にし、更にPAC3-1を防衛範囲が拡大し同時対応能力を向上させたPAC3-MSEに順次バージョンアップして日本全土を守れるようにしてていく。

### 情報に耳を傾けつ 冷静な判断を

北朝鮮がミサイルを発射した、試射を行った、そして日本海に落ちた、着弾したなど報じられると、マスクミニ日本が狙われた、在日米

北にはロシア、西には中国、南には韓国があり、その三方にミサイルを打つわけにはいかない。つまり北朝鮮には東の日本海に打つしか選択肢がないのである。従つて、日本が狙われていると過剰に反応する必要はない。今後、日本は、イージス艦の増艦やペトリオットのバージョンアップなど、更に即応能力、同時対応能力、継続的な対処能力を強化し、国民の生命と財産を守り続ける。

※本文内の写真、図①、②出典：防衛省HP

## 駅頭活動報告



駅で「ぼれぼれ通信」を  
お配りしております

## 駅頭活動報告

いつも受け取りに来る中学生が、  
久し振りに会ったら、  
ビックリするぐらい  
大きくなっていました！  
子供の成長は凄いなあ～！

朝の6:30～8:30までの2時間にわたり、4区内の下表の駅で活動をさせていただいております。

※雨の日は鞄と傘をお持ちの皆様が多いので、駅頭活動を控えています。



### 前回の「ぼれぼれ通信」配布数

5月・6月集計分

駅名	5月	枚数	6月	枚数	前月比
逗子駅	8日(月)	374	2日(金)	445	↑
新逗子駅	9日(火)	368	22日(木)	408	↑
鎌倉駅(東口)	23日(火)	401	5日(月)	400	➡
鎌倉駅(西口)	12日(金)	406	6日(火)	427	↑
大船駅(西口)	22日(月)	461	7日(水)	479	↑
大船駅(モノレール口)	15日(月)	401	8日(木)	414	➡
大船駅(東口)	16日(火)	418	9日(金)	441	↑
大船駅(笠間口)	17日(水)	308	12日(月)	501	↑
本郷台駅	18日(木)	235	16日(金)	340	↑
港南台駅	19日(金)	186	20日(火)	175	➡
	5月配布合計	3,558	6月配布合計	4,030	

ちょっとした時間に見ていただけるような情報を皆様にお届けしております。  
見かけた際はぜひお手に取っていただければ幸いです。

アドレスは「ぼれぼれ」

twitter、Facebookも本人がやっています  
皆様からのご質問やご意見、お待ちしております。



twitter  
@ty\_polepole

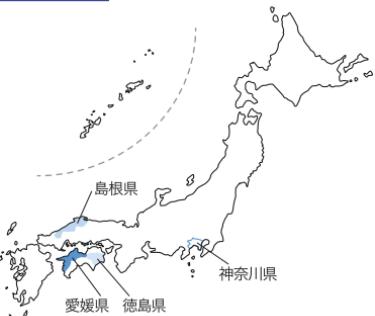


facebook.

facebook.com/ty.polepole

## ストレスオフ県ランキング2017

順位	都道府県名	ストレス オフ指数
1位	愛媛県	51.3
2位	島根県	44.3
3位	徳島県	34.3
24位	神奈川県	3
⋮		



## ストレスオフ県ランキング2017発表！

山本らが進める「ストレスオフ政策研究会」などの連携により、全国20～69歳の7万人を対象にストレスチェックを今年も実施。このたび県ランキングを発表。

昨年に引き続き、ストレスオフ県ランキングを発表した。首位は愛媛県で、第2位の島根県に10ポイント以上差をつけた結果に。神奈川県は、なんと昨年と同じく24位。愛媛県は「セルフライフバランス（自分の生活ペース）」の指数がとりわけ良好で、時間の使い方やセルフケアにおいて低ストレスということが好成績につながった。西日本、特に瀬戸内地方に上位が集まっている、気候環境や生活スタイルなど参考にできる点がありそうだ。

分かりやすいと大人気!  
山本ともひろ国会見学ツアー

国会を山本ともひろと一緒に見学してみませんか？

「政治が身近に感じられた」「分かりやすく、楽しかった!」と大人気の見学ツアーは無料で行っています。詳細は下記の事務所まで、お気軽にお電話ください。



## 山本ともひろ事務所リスト

## 本部事務所

神奈川県鎌倉市大船1-6-6 大久保ビル3F

TEL:0467-39-6933 FAX:0467-39-6943

## 国会事務所

東京都千代田区永田町2-1-2 第2議員会館 1110号室

TEL:03-3508-7193 FAX:03-3508-3623

# いったいどんな人なの? 山本ともひろ 解体新書

自由民主党  
衆議院議員(3期 8年)

神奈川4区(栄区・鎌倉市・逗子市・葉山町)  
昭和50年(1975年)生まれ  
42歳 鎌倉在住

PICK UP!

喉

政治家は声が通るに越したことはない。街頭演説や講演、国会での質疑や答弁など、広く有権者に自分の主義主張を訴える際に声は重要な要素の一つである。山本はその声を活かして郷土芸能・伝統芸能の保存に努めている。そのうちの一つが木遣だ。現在、鎌声会に所属をし、口伝によって鎌倉の木遣を習得中だ。国會議員のユニークな趣味として週刊誌に報じられたほどである。



## 経歴

- 関西大学 商学部 卒業
- 京都大学 大学院 修士課程(法学)修了
- (財)松下政経塾 卒塾(21期)
- 米国ジョージタウン大学 客員研究員、その後、会社員を経て
- 平成17年 衆院選 初当選
- 平成24年 衆院選 2期目の当選
- 平成26年 文部科学大臣政務官・復興大臣政務官 就任
- 平成26年 衆院選 3期目の当選
- 平成27年 オリンピック・パラリンピック大臣政務官 就任



## ぼれぼれ通信って何?

「ぼれぼれ」は、ケニアの公用語のスワヒリ語で「ゆっくり、ゆっくり」という意。私は、ケニア・タンザニア米国大使館同時爆破テロの現場(ケニア)に居合わせたのがきっかけで政治家を志しました。

一度に全てを変えることは無理でも、諦めず、ゆっくりでも少しずつでも政治を変えていきたい。そうしなければこの国は良くならない…。そしてその活動を皆様にお伝えしていきたいという想いを込めて、この冊子を作っています。

平成29年(2017年)7月1日発行 第35号

【編集・発行】山本ともひろ後援会ぼれぼれ通信制作委員会 鎌倉市大船1-6-6 3F TEL 0467-39-6933 FAX 0467-39-6943  
※本誌は、隔月(1、3、5、7、9、11月)発行の機関誌です。バックナンバーについては上記事務所までご連絡ください。またHPにも掲載しておりますのでご覧ください。